

学長式辞

本日、卒業を迎える皆さん、そして、ご列席の保護者の皆さま、キャンパスの桜も門出を祝うなか、どこおりなく短期大学士の学位を授与いたしました。

まことにお慶び申し上げます。

短期大学部では、建学の精神「主師親」のもと、「豊かな人生を送るための3つの力」を身につけて欲しいと、教育をしてまいりました。

「学び続ける力」「実践する力」「社会に役立てる力」です。

高校までの学習指導要綱では、次のように表現されています。

「知識・技能」…… 何を理解して何が出来るか。

「思考・判断・表現」…… 理解していること、できることをどう使うか。

そして「主体的に学修に取り組む態度」…… 学びに向かう力、人間性。どのように社会、世界と関わり、より良い人生を送るか。

これは、三つの力そのものです。

入学式で、短期大学時代は、みなさんのアイデンティティを育てる大切な時間だと、お話ししました。きっと、自信を持って「私」と言える。そんな成長をしていただけたと信じています。

わたしたちは、この世に生まれたとき、ご家族の無条件の愛に育まれていました。

それが、いつしか、誰かに評価され、他人の目を気にしなければならなくなりました。

短大では60点で合格だよ、単位を取れば卒業だよ。

自分を維持するのに、どうして他人の評価が必要なんだろう？

いつしか、「あれ、おかしいな」と思いはじめます。

そして、繊細な自分を守るためには、本当の自分を押し殺して、「いい子」を演じなくてはならなくなりました。

辞書には、こうあります。

「行儀がよく、大人の言うことをよくきく子供」

「子供をほめていう言葉」

「自分だけが人に良く思われるよう、うまく立ち回る人」

これは、誰にとっての「いい子」なのでしょう？

少なくとも、本当のあなた自身でないことは確かです。

そして、あなたは、「いい子」を演じるために、何かを我慢し、時には見栄を張り、自分を守るために、壁（バリア、カウンセリング分野ではブロッキングなどとも表現されている）を創らなくてはなりません。

その壁には、尖った棘があるかもしれません。

いつしか、その棘のあることすら忘れて、自分が他の人からされたのと同じように、その棘は、知らないうちに誰かを傷つけているかもしれません。

自分のアイデンティティを確立できなければ（アイデンティティ・クライシス：アイデンティティの危機）、他人との適切な距離感を保てず、他人を評価し、比較し、攻撃することでしか、自分自身を維持することも表現することもできなくなってしまいます。

与える喜びよりも、奪うことでしか心が満たされません。

そんな人は、挨拶も返してくれません。

いつしか、あなたはその壁を創ったことすら忘れてしまいます。

その壁は、あなたを守り、不都合なことを防いでくれる代わりに、思いやりや共感といった、成長の糧となる、大切な感性も入れないようにしてしまいました。

これから、大人になるということは、その壁に気づくことに他なりません。

棘をひとつずつ丸めてそぎ落とし、壁を取り除いていく、そんな作業になります。

大丈夫です。主師親のモデルとなったお釈迦様も、生と病と死に直面し、悩み、葛藤し、誘惑に打ち勝ち、煩惱を手放し、悟りを開いたのはようやく30歳を過ぎてからです。

先日、皆さんの先輩の就職先の企業との懇談会がありました。

企業での新人教育は、コーチとして、メンターとして、皆さんひとりひとりをしっかりと見て、育ててくれています。

ですから、安心して、社会に巣立って行ってください。

これまで、皆さんは、学生時代には答えのある勉強しかしてきませんでした。

でも、社会に出たときに必ずしも、誰にでも通用する、普遍的な正解があるとは限りません。

答え合わせも出来ません。

60点が合格ではないかもしれません。

そのときに、あなたにアドバイスをしてくれた先生方は、もう近くにはいません。

自分の力で、あなただけの答えを探さなければならないのです。

その答えは、あななのこれまでの、そして、これからの人生の積み重ねの上にあります。

スマートフォンに歩数を計る機能があるように、すべての選択も経験も感情も、あなたの心の中にカウントされていきます。

みなさんの今の現実も、その選択の結果です。

しかし、あなたがどのような選択をしたとしても、そのすべてが正解であり、気付けば、そこには、成長のためのアイテムがちゃんと用意してあったはずで。

そして、自分の足で歩いた、一步一步が、必ず皆さんの未来を創り出します。

これから巣立っていく皆さんに、先人達の言葉をいくつか伝えます。

「言いたいことを思ったまま口にするのは、楽な方法ですが、相手に伝わるためには、かしこさと、思いやりと、優しさが必要です。言葉はいきもの、大切に使うものです」

「自信がついてから挑戦するのではなく、挑戦をした経験が自信になります」

「変わってから行動するのではなく、行動できた人から少しずつ変わっていく」

「いいことが起きたから感謝するのではなく、感謝するからいいことが起こります」

「幸せだから笑顔になるのではなく、笑顔でいるから心が幸せになるのです」

あなたの心のもういらなくなったもの、握りしめているものを、ひとつひとつ手放すことで、心は軽くなり、人生は躍動して動きはじめます。

爽やかな笑顔は、出逢ったすべての人々に笑顔をもたらします。

そして、その輪は、周りの人を巻き込んで、大きく広がっていくはずですよ。

人生にはたくさんの出逢いと別れがあります。

皆さんは、この短期大学でどんな人に出逢えたでしょうか。

どんな思い出を創ったでしょうか？

これからは、ここで学んだことを糧に、広い世界の中で、「何を考え」「何をなしえ」「次の世代に何を伝えるのか」、それが問われることになります。

今、世界はこれまでにないほど急激に動き始めています。

これから、古い概念がくつがえされ、新しい概念が創造されていくでしょう。

しかし、どんなに環境が変わっても、自分のアイデンティティがわかる、ぶれない自分を持っていれば、何事にも動じることはありません。

今、この瞬間に、誰のものでもない、あなた自身を、自信を持って、そして笑顔で楽しんでください。

明日から、新しい冒険のはじまりです。

私たちは、10年後、20年後のみ皆さんの活躍を、楽しみに見えています。

2026年3月23日

目白大学 短期大学部

学長

山田 隆文